



ZOOM UP

関係部署間での連携と予防・健康づくり活動を学ぶ



講演をする矢島鉄也氏

8月2日、嘉島町民会館において、本会主催のもと「令和元年度国保・保健主管課長・担当者研修会」を開催し、県内各市町村の国保及び保健並びに介護部門の課長及び担当者、熊本県、後期高齢者広域連合の担当者207名が参加した。

本研修会は、地域住民に身近なところで保健事業を担う、市町村の事務職、保健師、管理栄養士等が、現在の国の情勢をより深く理解した上で、職員配置等の体制整備や事業計画へ反映し、関係各部署で連携を図りながら予防・健康づくり活動を着実に実施できるように支援することを目的に開催している。

今年度は、元厚生労働省健康局長で、これまで予防・健康づくりに関わる政策決定に携わってこられた千葉県病院局長の矢島鉄也氏を迎え、「国保制度改革等における予防施策の重要性」と題し、講演を行った。

また、事例報告として、玉名市と錦町が、関係部署間での連携の状況やこれまでの保健事業の取り組みについて報告した。

～矢島氏講演～

「国保制度改革等における予防施策の重要性」

矢島氏からは、国保を取り巻く情勢や国が生活習慣病対策、重症化予防を進める理由やそのことが国保制度改革・保険者努力支援制度にどのように関連しているか、また、国保・保健部門の役割について説明があった。



千葉県 病院局長
矢島鉄也氏

その中で、「まずは健診を受けてもらうことが重要であり、そのことは重症化予防へもつながる。また、施策等の本質を理解した上で、住民の健康を守り保険料（税）を抑えることができるような成果が出せる保健事業を進めることが今後求められていく」と述べた。

また、令和2年4月から施行される「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」においては、「75歳以上においても、引き続き重症化予防を行っていくことが必要であり、通いの場に保健師と管理栄養士が積極的に介入し、介護予防と重症化予防を一体的に展開するなど、健康で長生き・生涯現役で働き続けることができる社会を目指していくことが大切である」と力を込めて話した。

参加者からは、「国の動向を理解した上で成果が出る保健事業を行っていきたいと強く思った」、「糖尿病の重症化予防に力を入れる理由を再確認できた」、「専門職の役割や保健指導の重要性がわかった」、「保健事業と介護予防の一体的実施について重要性が理解でき、イメージがわいた」などの感想が寄せられた。

～玉名市からの報告～

「国保と保健・介護・他部門との連携による事業の展開」

玉名市保険年金課長の竹田氏は、今年NHK大河ドラマ『いだてん』の主人公であり、玉名市の名誉市民である金栗四三氏について、また、玉名市における地区ごとの人口比率や高齢化率等の概況について述べた。

続いて、保健予防課保健師の田尻氏は、平成30年度から特定健診事務を予防部門へ移管したことで、国保主管課と情報共有を図るため、“定例会”を設置したことによる効果等について報告した。

また、他機関との連携では、玉名郡市医師会や糖尿病専門医からの「健診受診率アップに向けた行政と連携した取り組みを行いたい」との声掛けをきっかけに、郡市医師会をはじめ糖尿病や腎臓内科の専門医をメンバーとした糖尿病性腎症ワー

キンググループを平成30年に発足した。ワーキングでは、①特定健診受診率アップ、②糖尿病連携手帳の活用、③医療従事者向け講演会、市民公開講座の開催に取り組んでおり、今後も引き続き、開業医の協力のもと、対象者と保健師等・医療機関とが一体的に治療や予防に取り組み、事業展開していきたいと述べた。

参加者からは、「医療機関との連携についてわかりやすくて良かった。今後活用させていただきたい」、「“定例会”を定期的で開催し、情報共有・共通理解ができていて他課との連携も上手く機能していると思った」などの感想が寄せられた。



竹田保険年金課長

田尻保健師

～錦町からの報告～

「保健事業・介護予防一体的実施に向けて」



小林健康保険課長

錦町健康保険課長の小林氏は、国保や介護の実態と特定健診・特定保健指導の取り組み状況をはじめ、中学生の健康診断について経緯や実施方法等について報告した。

中学生の親世代にあたる 30～50 代の健診結果を見ると、糖代謝異常・脂質代謝異常が 5 割を占めており、若い頃からの血管内皮障害が起こっている状況が考えられたため、若い世代からの健康への意識付けや早期介入のために、平成 28 年度から中学 3 年生を対象に特定健診と同等の健診を実施している。

また、親子で健康について考える機会となるよう、健診結果説明会を学年行事として実施し、町民へも生活習慣病は大人だけの問題ではないことや健康の大切さに気付いてもらえるよう、中学生健診の結果を町の広報誌に掲載している。

さらに、特定健診受診率向上へ向けた取り組みとして、親子で受診できる環境づくりや、時事ネタを盛り込むなど印象に残る啓発用チラシを毎年作成している。

そのほか、錦町では地区担当制により、乳幼児から高齢者まで一体的に関わりを持ち、関係機関と情報を共有しながら、早期にサポートできる体制作りを行っていることを述べた。

参加者からは、「中学生と親と一緒に健康指導が受けられるなど、ライフステージに合った生涯を通じた保健事業の取り組みの必要性を再確認した」、「各担当が一体的にそれぞれの役割を認識しながら実施されていることが成果に繋がっていると感じ、参考になった」、「ユニークなチラシ作りが参考になった」などの感想が寄せられた。



研修会の様子